

### ■楽しい自治公民館活動の紹介

自治公民館では、様々な活動を行っており、地域によって特色ある活動を行なっているところもあります。このコーナーでは、その一部を紹介します。

#### 【ふれあいBBQ ～上町自治公民館(菱田地区)～】

上町自治公民館では、10年程前から「ふれあいBBQ」を開催しています。子どもたちの夏休みに行なわれるこの行事は、七夕飾りを作ることから始まります。子ども会が切ってきた竹に、みんなで持ち寄った材料で飾りつけをしたり、炊き出したお米でおにぎりを作ります。バーベキューが始まるとビールや焼酎で酒盛りが始まり、花火やスイカ割りなどのイベントもあり、楽しい1日となります。この日は大人から子どもまで約30名が参加しました。



自治公民館長の黒瀬照己さんは、「子どもたちにとっては、夏休みのいい思い出作りになるし、高齢者や大人も子どもたちや若い人とのふれあいを通じて元気をもらえるいいイベントです。」と語っていました。

## 大崎町地域包括支援センターだより

問 大崎町地域包括支援センター  
☎471-7828

### ●暮らしのコンシェルジュ

当センターは、高齢者の暮らしについて様々な相談や要望に応える「よろずの窓口」です。暮らしのコンシェルジュに寄せられる、ご相談と対応を紹介します。

今月は「認知症疑い」について取り上げてみたいと思います。

●相談内容…母が同じ話を何度もする、聞くようになった。受診を勧めるが「私は物忘れの自覚がある。だから認知症ではない。受診したくない」と言う。どうしたらよいのでしょうか？

●対応策…本人の視点で考えてみましょう。まずは本人の気持ちを理解することが重要です。

- ・本人は物忘れの自覚があり、不安が強くなっていることを理解します。
- ・本人の知る認知症の人のように自分も同じようになるのではないかと次の不安が呼び起こされます。
- ・物忘れが原因で人とうまくコミュニケーションがとれない違和感、焦りを感じています。コミュニケーションが円滑にできなくなることで、相手への不満だけでなく、誰とも話したくないといった殻にこもってしまうこともあります。
- ・受診することで、認知症と診断されてしまうのではないかと自分が自分でなくなる恐怖と強い不安を抱えているのかもしれない。

### ■どのように関わっていけばよいのか？

- ・周囲の人は本人の不安を理解し分かち合しましょう。・急かさず時間をかけて対応しましょう
- ・物忘れをすることで何かしら生活に支障がでていないか確認します。本人の支えとなりましょう。
- ・本人が「認知症と診断されても、この人たちは変わらず自分を大切にしてくれる」という確信をもってもらうことが非常に重要です。